
敬愛大学総合地域研究所 第7回公開シンポジウム報告①

第1部 プロ野球と地域活性化

千葉ロッテマリーンズと広島東洋カープの事例から

対 談：山室 晋也 (千葉ロッテマリーンズ取締役社長)

栗屋 仁美 (敬愛大学経済学部教授)

司会進行：藪内 正樹 (総合地域研究所所長・経済学部教授)

藪内教授(以下、藪内) 今回のシンポジウムを主催する敬愛大学総合地域研究所所長の藪内です。よろしくお願いします。

第1部は「プロ野球と地域活性化」をテーマに、千葉ロッテマリーンズ取締役社長山室晋也氏と、敬愛大学の栗屋仁美教授の対談というかたちでお話をいただきます。第2部は「東京オリンピック・パラリンピックと千葉の地域創生」と題し、大会で一部競技が幕張メッセで開催され、世界中からさまざまな人が集まるこの絶好の機会を活用し、どのように千葉をアピールしていくのか、行動計画を策定している千葉市に縁のある、車いすスポーツを中心にパネルディスカッションを行います。

栗屋教授(以下、栗屋) 敬愛大学の栗屋と申します。よろしくお願いします。第1部はプロ野球を通して地域活性化を考えるということで、株式会社千葉ロッテマリーンズについては山室社長から、また私からは広島東洋カープ(以下、広島カープ)の事例を報告します。企画時には、弱小チーム同士の話題となるはずだったのですが、昨シーズンの躍進を受け、いまやともに強豪チームとなり、少し寂しいようなうれしいような微妙な感じがしています。

まずは山室社長から千葉ロッテマリーンズについて、ご紹介いただきます。よろしくお願いします。

山室氏(以下、山室) はじめまして。千葉ロッテマリーンズ(以下、マリーンズ)の山室です。本日は、プロ野球と地域活性化がテーマということで、敬愛大学にお話をする機会をいただきました。よろしくお願いします。

まず簡単に、球団の本拠地球場、ZOZOマリンスタジアム(以下、マリンスタジアム)

を紹介します。千葉のランドマークであるこの球場は「スポーツの振興と文化の向上」を旨に、1994年に開設され、現在、3万人近くの収容力をほこる大きな公共的施設です。ただ、海浜幕張駅から15分ほどあり、私は全球団の施設に行きましたが、最寄り駅からのアクセスが悪く、他球団に比べ大きなハンデを負っています。

マリスタジアムは、マリーンズのフランチャイズ球場としての顔をもっています。マリーンズはオリオンズ時代から弱小球団と呼ばれ、現在もそれほど強くはありませんが、私たちは、ファンとチームが近い関係を結ぶ、ファンに一番愛される球団を目指し、少しでもファンの皆さんに楽しんでもらおうと、さまざまな努力をしています。

たとえば、「ワンハートマリーンズ」というビッグフラッグがあります。それは試合中に観客席から掲げる球団の旗ですが、多くは広告、つまり売り上げ増のため、他チームの場合は球団がお金を出して実施しています。しかしマリーンズの場合はすべてファンによる寄付、ボランティアで運営されています。ファンの皆さんが1口1,000円でお金を出し合い、ファンの皆さんが旗を掲げているのです。球団側は、どのタイミングで掲げるのかなどに一切関与せず、純粹にファンの人たちが実行します。当初球団側でも何かお手伝いをしようと話をもちかけてみたのですが、「これは企業色、広告色を出したくないので自分たちでやらせてほしい」と応えられ、私たちにとっては非常にありがたく、12球団一の応援といわれるほど熱いファンの皆さんに支えられていることを実感しました。

また、プロ野球のファン感謝デーはどの球団も年1回11月に開催しますが、よりファンの皆さんに感謝をかたちにしようと、特別なユニホームを着て選手が身近に感じられる毎月1回のファン感謝デー「マリンフェスタ」を設けました。

さて、もう一面として、市民球場としての顔もあります。千葉市の条例で「一般開放」

第7回公開シンポジウム 「スポーツと地域創生」

平成28年6月18日(土) 13:00～15:30
於 敬愛大学稲毛キャンパス3号館3301教室

〈プログラム〉

第1部 「プロ野球と地域活性化」

対 談：山室 晋也（千葉ロッテマリーンズ取締役社長）

粟屋 仁美（敬愛大学経済学部教授）

司会進行：藪内 正樹（総合地域研究所所長・経済学部教授）

第2部 「東京オリンピック・パラリンピックと千葉の地域創生」

講 師：熊谷 俊人（千葉市長）

神保 康広（元車椅子バスケットボール日本代表）

渡 正（順天堂大学スポーツ健康科学部准教授）

司会進行：高岡 英氣（敬愛大学経済学部准教授）

質疑応答

と「市民開放」が約7割義務付けられ、市民の皆さんはじめ、コンサートやマラソンなどのイベントにも開放・活用されています。写真のとおり、「一般開放」は、ほのほのとしており、1時間9,720円、学生だと4,730円と利用料金も安く、野球チームで20人で割り勘にすると1人235円と、カラオケボックスに行くより安く、3万人が入る球場で草野球ができるのです。

これは、市民にとってはとてもいいことなのですが、スポーツ技術的に考えると効率が悪いという別の見方もあります。

山室 社長

マリーンズは現在、指定管理制度というかたちで、「千葉市が所有する球場」を受託しています。私たち受託者は、自治体がしていた管理を負担、委託費などを支払い、貸し出しなど運営の一切を任されますので、双方にメリットがあります。プロ野球で指定管理制度を使っている球団は私たちと、現在「Mazda Zoom-Zoom スタジアム」と呼称される広島市民球場を本拠地とする広島カープです。指定管理制度は、官と民が連携する官民連携PPPで、民間の活力を利用して地域活性化を計るという考えに基づいています。

この制度を導入したことにより、市・球団の収益がどのように変わってきたかをお示しします。これは十数年以上前のデータで、第3セクターが入っていますので、千葉市サイドからみたイメージとして考えてください。以前の収益は一般利用によるものがほとんどで、安価な料金で貸し出していたので、その収益は年間3,000万～4,000万円とほんのわずかでした。それに対して管理費や委託費は3億3,000～4,000万円もあり、3億円以上のコストがかかっていた。これは赤字を垂れ流しているという言い方ができるかもしれません。市民としては安く利用できるのはよいのですが、その対価が3億円以上の税金となっていました。

マリーンズがフランチャイズしたことにより、プロ野球球団としての施設利用料、広告看板などの行政財産使用料の3億数千万円が入るようになりましたが、指定管理制度を導入する前の球場の収支は損も得もしない状態でした。

指定管理制度導入後は球団の親会社のロッテが指定管理業者になり、千葉市は使用料収入はゼロになりましたが管理経費負担がなくなり、さらに行政財産使用料や、ネーミングライツ（命名権）料が入るようになり、その前後を比較しますと千葉マリーンズの指定管理制度によるフランチャイズ化で市の収益は約6億円にのびました。球団から見ると、制度導入以前は借りていたただけなので施設利用料は3億円ほどでした。指定管理業者になってからは、市に対し行政財産料を支払い、管理費も負担するのですが、それ以上に広告看板や、球団グッズなどの物販、直営化した飲食店の収入により大幅に収益が改善しました。トータルでは市は6億円、球団は7億円ほどになります。まさに官民連携の好事例として、ウィンウィンの関係ができたのです。ただ、このようにお話しすると「ロッテは公共施設を使って儲けているのか」と批判をいただくことがあります。しかし、民間ならでは、投資などさまざまな経営努力の結果、市・球団ともにトータルで改善しており、民間の活力により成果をあげたと言えます。

施設改修状況を示します。球場としての設備整備は市が行います。球団独自で行う設備としては、球場でバーベキューを楽しむバーベキューシートがあります。広島には以前からあり相当な人気と聞き関東でも是非と、今年（2016年）から始め、とても好評です。また、従来記者席だったバックネット側の特等席をお客さんに開放、サントリーマスターズドリームシートを設けました。記者の方たちには申し訳なかったのですが、少し移動してもらいました。そして、主審の真後ろのエリアを高級シートにし、食べ放題、サントリーの高級ビールも飲み放題として発売しました。サントリーの名前を冠しているの、ここでもネーミングライツを売ることによって収益が生じます。現在は即日完売の状態、ファンの皆さんからも12球団一迫力のあるシートだと評判です。さらに、お座敷ボールパークなど、いろいろな席をいろいろなニーズに合わせて設置を増やしています。

昨年あたりから球場はプロ野球を楽しむ「総合エンターテイメント」の場だとの考えの基にいろいろな場所に装飾をほどこし、ワクワク楽しめる施設として充実させていくよう努力を続けています。12球団で一番小さかった、センターのうしろの大型ビジョンも今回、市が約64%、球団が36%を負担し、三面の超大型ビジョンにリニューアルしました。屋外球場としては恐らく面積合計で最大クラスで、楽天の本拠地球場（kaboパーク宮城）とほぼ同じ大きさで大変迫力があります。こういった経営努力で去年は観客動員数が約8%、今年約22%、と大変増えてきています。千葉に根差した球団としてこれからの地元の人たちとともに、より一層、地元経済を潤し、多くの皆さんの誇りとなるような球団を目指していきたいと思えます。

最後に、交流戦では毎年挑発ポスターを作っています。今年はせっかくの大型ビジョンを活かそうと、「非交流戦士マジワラン」というCGキャラクターで他球団を挑発しています。栗屋先生が広島カーブの話をしていただくというので、対広島カーブバージョンを流させてもらい、私の話は以上とさせていただきます。どうもありがとうございました。

栗屋 山室社長からはマリーンズについてお話いただきましたが、私からは広島カーブについてお話しします。私は、広島生まれの広島育ちで、意図することなくカーブ女子となり、昨年3月まで広島の大学に勤めておりました。その広島カーブがいったいどのような球団なのかということをお話の皆さんに紹介をします。

まず、広島カーブの本拠地は広島市です。そして「Mazda Zoom-Zoom スタジアム」（以下、マツダスタジアム）がそのメインスタジアムの名称です。広島カーブは、プロ野球が2リーグ体制になりセ・リーグができた1950年に設立されました。実は日本一に3度なっており、リーグ優勝も6回しているのですが、本日来場の大学生の皆さんはおそらく広島カーブが優勝したことを全くご存知ないかと思えます。

広島カーブはオーナー企業のない、本当の市民球団と言われています。先日はオバマ米大統領（当時）が慰霊に訪れましたが、広島市が被爆という負の歴史から立ち上がり、一生懸命頑張ってきた結果が、この広島カーブにも表われていると思えます。オーナー企業がないということは資金がないということで、どうしたかという市民が募金のための樽を作り、その樽に、みんながタバコ代やビール代など少しずつ入れ、広島県や広

島市の地元の企業もまた少しずつ出し合いお金を集め、球団を作ったというのが創設時の歴史です。

現在は、2009年に広島駅徒歩圏の、7～8分で行くことのできる場所にマツダスタジアムができ、観客席も、山室社長がカープのまねをしたと言われていましたが、多様化され、選手も、誰とは言いませんがイケメン化し、黒田博樹投手やマエケン（前田健太投手）などグローバルレベルでの選手が登場してきたこともあり、女性客が大変増加しました。マツダスタジアムは、西欧人の観客が多いという特色もある、とても魅力ある球場です。

以前勤めていた広島の大学でマツダスタジアムとカープについて学生たちと調査した結果を少し紹介します。旧広島市民球場時代と現在のマツダスタジアムの時代の状況を比較すると、まず、遠く県外から観客が来るようになったことよってJRの利用率が上がり、自動車利用率が低下しています。また、野球観戦後に食事やショッピングをするため、広島市にお金を落とす割合が上がりました。同時に、リピーター率も非常に高いことがキャピキャピした女子たちの調査で分かりました。これは「エネルギー経済地域レポート」という中国電力のレポートからですが、こちらが広島カープ主催試合の1975年から2015年までの年間観客動員数です。緑色が優勝した年です。2009年がマツダスタジアムができた年で、ここから増えてはいますが、その前年と前々年は旧広島市民球場がなくなるという寂しさから、多くの人が球場に駆けつけています。マツダスタジアムの初年度は新スタジアム効果で観客数は伸び、少しの間低迷した後、2014年からカープ選手のイケメン選手効果や黒田選手の帰国効果、マエケン人気の効果が現われ、大きく伸びるようになりました。広島カープの成績は、3位、4位とそれほど良いわけではなく、2016年のシーズンも4位でしたが、2015年、2016年の経済効果はその前の年に比べ、非常に伸びています。つまり、広島カープと広島の経済活性化を担っているのは広島カープの成績ではなく、ファンだということです。そしてこのファンが広島だけではなく全国に拡大し、首都圏の球場におけるビジター戦への広島カープのファンの来場率が増加しはじめました。

表は2009年から2011年を分母にとった平均です。2012年から2015年のカープファンがどのくらい球場に足を運んでいるかという割合です。全体に増え、特に神宮球場の割合が高くなっています。また、ぜひ一度横浜スタジアムにみに行っていただきたいのですが、観客席の3分の2が真っ赤っかで、いかにカープファンが多いかが分かります。そしてその約半分を担うのが「カープ女子」といわれる女性たちです。カープ女子はここ2、3年に言われはじめた言葉で、最初は首都圏の女性のカープファンを指していましたが、現在はもっと広い意味で使われるようになりました。そこで敬愛大学の2年生の粟屋ゼミでは、その首都圏のカープ女子たちがいったいどこから来るどういう人たちなのかということ調べることにし、先日、山室さんや三浦さんのご好意により、交流戦の初日の5月31日にマリンスタージアムで調査をさせていただきました。この数字は割合ではなく絶対数で、サンプル数は95人ですが、一生懸命集めたものです。その結果、年齢は30歳代を中心に幅広く、職業は会社員が多く、主婦の方もいました。居住地は千葉県が多いのですが、東京都、神奈川県、そして遠く広島県が10人でした。出身地は広島県が28%でしたが、千葉県の方も多数いました。赤いユニフォームを着たカープ女子への

ヒアリング調査では、「出身地や居住地で広島に縁のある人」が約3分の2、「広島出身の友人から影響を受けた」「親族が広島出身」という人がいる一方、そうした人たちに「誘われた」、または「好きな選手がいる」など、広島という土地に縁のないカープ女子が3割いました。いつごろからかと聞くと、やはり「最近」が一番多い答えでした。

こうした変化により、かつて貧乏球団といわれた広島カープの経営は大変好調になりました。昨年度の売上高は球団史上最高の148億円、内訳は入場料、関連グッズ、放映権料です。以前は半分を占めていた放映権料に依存した経営体質だったのですが、去年はその割合を1割にし、その体質を変化させました。

栗屋 教授

それでは、そうした広島カープが広島に存在する意義は何でしょう。地方には、東京、千葉、神奈川、埼玉など首都圏の人たちには分からないであろう辛さがあります。それは絶対的に人口が少ないというデメリットです。人が少ないと公共交通機関が充実せず、移動を自動車に頼らざるをえないこともそうですが、広島市は政令指定都市でそこそこ大きな町なのにこれも人口が少ないせいでしょうか、観覧車も、遊園地もありません。このデメリットをメリットとしてしていこうと、何もないのならあるものを応援しよう、そして、マツダスタジアムに行こうということになります。何もないからあるものを大事にしていると、一体感や、故郷というものに強いノスタルジアが生まれてくると推測されます。プロスポーツの対人口観戦率はなんと広島県が66.4%で1位です。千葉県は27.5%で9位ですが、首都圏は分母が多いので割合が下がります。総観客数は広島県の189万人、千葉県の170万人と、実数はあまり変わりません。広島カープ、広島県は一生懸命頑張ってMAX66.4%ですが、首都圏にはまだまだ伸びしろがあります。

このように、広島カープについて学び、研究し、野球を観るといのは野球が好きな人だけの行為ではないということが分かります。テレビからスタジアムへとその観戦の仕様が変わってきているなかで、野球というものが広い意味でのレジャーになってきており、個人の生活の質や生きてる感を満たすものになってきているのではないかと感じています。

以上、広島カープの事例について話をさせていただきました。これから、山室社長と対談というかたちで私が質問をします。

マリーンズがこの地にあるということの喜びについて、まず過去のご苦労の歴史と現在との比較、千葉に球団があることをどう考えておられるのか、加えて、千葉に期待したいこと、山室社長が考える野球を含めスポーツの位置付けについておうかがいしたいと思います。お話をうかがった後、フロアの皆さまから質問をいただきます。

広島カープは広島で生まれ、広島にずっと存在するのですが、マリーンズの過去をひも解くと、とても哀しい放浪の歴史があります。安住の地を千葉にみつけたことについて

て、何か教えていただけますか。

山室 はい。まさに哀しい歴史です。伝統のある球団ではあるのですが、オリオンズ時代は、宮城県や川崎市とフランチャイズ球場が転々とし、観客がほとんどいない球場で試合をしたこともありました。その特定の地域に根付かない球団がようやくこの千葉に移転し、おかげさまで今年、25周年を迎えました。宮城、川崎時代に比べると観客、ファンの数も格段に増えましたし、千葉の人たちにかんがりの支持をいただいております、ようやく安住の地にたどり着いたなと感じています。

栗屋 千葉でよかったなと思いますか。

山室 よかったと思います。栗屋先生の資料にありましたが、千葉県の人口は600万人以上、大都市圏にありますので、千葉という県自体にもとより高いポテンシャルがあり、その伸びしろのある土地に安住の地をみつけた唯一の球団として、これからも千葉の皆さんに貢献し、さらに愛される球団になっていければと思っています。

栗屋 いろいろなイベントを開催されたり、球場を改装されたりと、果敢に動かされていますが、それは、山室社長の意向でのトップダウンなのでしょうか。それともボトムアップで進められているのでしょうか。

山室 きっかけは、トップダウンが多いです。多かったと言ったほうがいいのかもかもしれません。成績がやや低迷した時期もあり、よくケチケチ球団などと言われました。お客さまは華やかなものを求めて楽しみに来場するのに、そこに何となくケチくさい、貧乏くさい印象があっては、エンターテイメント事業においては受け入れられないものです。やはり、華やかで夢がある活気をつくっていかねばいけません。それには、最初はトップが責任は取るからこうやれと示していくことが必要で、ボトムアップでは、今までと違う流れにしようとする勇氣はなかなか生まれません。それが軌道に乗った現在では、現場サイドで自由闊達に動いています。

栗屋 野球はエンターテイメント事業という認識ですね。現在、マリーンズはとても強くなり、広島カープも強く、出来の悪かった子が立派になったのですが、私はそれがうれしいような寂しいような、複雑な気持ちでいます。そのような心境について、山室社長はどう思われますか。

山室 長い間、弱小チームであったマリーンズも、千葉の皆さんに育てていただき、強くなりつつあります。さらに強くなれるよう応援していただければと思います。

藪内 ありがとうございます。それでは残り10分になりました。フロアの皆さんから山室社長に質問をお願いします。

質疑応答

A 大変すてきなお話をありがとうございます。私は「マスコミドラゴンズ会」に属するマスコミのなかのドラゴンズファンです。山室社長におうかがいします。プロ野球球団のライバルではなく、エンターテイメント、アミューズメントとしてのライバルはどこを想定していますか。たとえば、ディズニーランド、NBA（北米プロバスケットリーグ）など、他のエンターテイメントやスポーツにおいて、どこと比較し、どこを目指しているのでしょうか。

山室 スポーツをビジネスとして捉えるのであればやはりメジャーリーグ（MLB）です。約20年ほど前の市場規模は、日本のプロ野球もメジャーリーグと同程度だったのですが、今は15～20倍の差がついています。それは放映権料の分配システムや、メインビジネスの違いなどありますが、ベンチマークになるのはやはりメジャーリーグです。

B 私は、よくマリンスタージアムに行くのですが。そのなかでも花火が好きで、これからも継続してやっていただきたいと思っています。マリンスタージアムでも仕事をされている清水サービスさんに、他のイベントで、30年ほどお世話になっていますが、清水サービスさんは球場でどのような仕事をされていますか。

山室 シミズは主に警備や案内、清掃も一部お願いしています。

C 以前横浜に住み、現在最も弱い横浜DeNAベイスターズの応援をしていたのですが、マリンスターが強くなった理由のレクチャーなどの活動はお願いできるのでしょうか。

山室 強くなったといってもまだ途上です。優勝すればそういった機会もあるかもしれません。

D 実は本日14時から巨人戦があり、自宅で観戦にするか、シンポジウムに参加するかを迷っていた者です。地域創生についてうかがいたいのですが、マリンスターは地域の子どもたちに、マリンスターダンスアカデミーや、私の大好きな上野大樹選手が今年からコーチに加わった少年野球教室を通して野球の普及を行っています。子どもたちへの支援活動は、将来に向けてどのような意図があつてなされているのでしょうか。

山室 地域球団として、千葉ロッテマリンスターとしてチーム名に千葉を名乗るかぎり、地域によりフォーカスした活動をし、地域に愛される球団を目指しています。目先の収益ではなく、社会貢献や、マリンスターダンスアカデミー、野球教室で、千葉の地元の人たちの間に深く入っていき、今後も継続的に、より徹底して行っていくつもりです。「千葉夢プロジェクト」という子どもの招待プロジェクトを数万人規模で実施していますが、これさらに拡大し、いずれは千葉県の小学生全員を招待したいと思っていますし、ボランティア活動にも力をいれ、千葉といえば千葉ロッテマリンスターと、千葉の人たちから誇りに思ってもらえる球団を目指していきたいと考えています。

E マリンスターと地域創生という観点から山室社長におうかがいします。千葉県と一言に言っても広く、総武線沿線、京成線沿線と常磐線沿線には少し温度差があると思います。私は松戸の出身で松戸在住ですが、常磐線沿線ではマリンスターにあまり関心がなく、サッカーチームの柏レイソルに関心があるかといえばそうでもありません。以前、柏の葉公園野球場で二軍戦が開催されましたが、常磐線沿線に関して戦略などありましたらお聞かせください。

山室 おっしゃるとおりですね。私たちの一番の悩みは、総武線や京成線沿線の皆さんにはお越しいただけるのですが、常磐線沿線の皆さんは東京に顔を向けられているようです。二軍の試合の開催など、ファンの掘り起こしをしており、柏や松戸で一軍の試合ができればと、球場を探したのですが、1万5,000程度の客席数や設備の問題から、実現できずにいます。一軍の試合ができる条件を満たした球場が柏や松戸にできたら、準フランチャイズにしたいという気持ちでいます。お知恵があればお貸してください。

F 私も松戸の在住ながら、マリンスターを応援させてもらっています。やはり車で球場へ行くことになりますが、マリンスターは駐車場が少なく、イオンや幕張メッセの駐

車場に利用することが多くなります。駐車場拡充の考えはありますか。

山室 いい質問ですね。交通アクセス、駐車場は大きな問題です。マリスタジアムは県立公園のなかにあり、県と市の管理が複雑で、私たちも自治体との折衝の際、たらい回しにされることもあります。現在、県の駐車場を球団ですべて管理させてもらえないか、隣の県立公園の北側に広い土地を駐車場として整備できないか、バスで来られる方も多数おり、津田沼から直行便を出せないか、などの要望を出しています。駐車場も一般の自動車とバスの導線が一緒になっているため、

藪内 所長

出入口付近がボトルネック状態になりなかなか出て行けないことからバスレーンを作るなど、交通アクセスの改善は現在最も取り組んでいるテーマです。行政との協力が必要なことなので、来年、再来年を目処に進めていますので、もうしばらくお待ちいただければと思います。

G 今日は巨人戦が東京ドームで開催されますが、来月にはマリーンズも東京ドームで主催試合をされるということで、今回東京ドームでの試合を初主催した意図や経緯を教えてください。

山室 先ほどのご質問にもありましたが、千葉といっても範囲が大変広く、特に常磐線沿線への浸透が弱いというのはご指摘のとおりです。私たちのアンケートでも明らかなように、そもそも千葉県民には千葉都民といわれる、千葉県に住み東京都に勤めている人が多く、そのような人たちに最大限楽しんでもらうには、勤務している東京での開催が一番と考え、今回の東京ドームでの主催試合を実現させました。松戸、柏など常磐線対策のひとつとして、東京ドームでマリーンズの試合を観て楽しんでもおうと、千葉都民のためにという意図で開催することにしました。

三幣学長 子どもたちとどう関わりをもつか、どう育てるか、どう好きになってもらうかというお話をされていましたが、大学でもお手伝いできることはないでしょうか。敬愛大学の硬式野球部には100人を超える部員がおり、彼らの協力が大学にとってもよいものになると考えています。

山室 アンケートによると、小・中学校の段階で、将来にわたってどのチームが好きになるかが決まってしまうので、現在、フォーカスは小・中学生にあり、野球を早い段階で楽しんでもらおうという思いで野球教室などに取り組んでいます。従来スポーツは、健康増進や生きがいなどの切り口でしか語られてこなかったのですが、政府もスポーツ立国として2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、これからはスポーツによるビジネスでGDP600兆円を目指すという運動を始めています。敬愛大学にはスポーツビジネスコースという、時代の最先端のカリキュラムが創設されています。大学生に対しては、インターンシップというようなかたちで、さまざまなスポーツビジネスの現場を学び、私たちも情報交換させていただければ大変ありがたいというように思っています。今後ともよろしくお願いします。

藪内 第1部はこれで終了です。この後数分間お休みをとりますが、その間に第2部のテ

ーマと関係する車いすバスケットボールの映像をご覧いただきたいと思います。

2016年5月にポートアリーナで、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックの車椅子バスケットボールと車いすラグビーの両方のアジア地区予選が行われました。ニュースや中継もありましたので、私も初めて観たのですが、非常に激しく見応えのあるスリリングな競技だと感じました。後ほど、元日本代表選手であった神保氏にも参加いただきますので、いろいろなお話がうかがえると思います。

お手元の資料のなかの小冊子に、パラリンピック競技の解説があります。そのなかに車いすバスケットボールのルールが紹介されています。選手ごと、障害の程度ごとに応じて1.0から4.5まで0.5刻みで選手を8つのクラスに分けており、障害の軽い選手ばかり5人でプレーすれば有利になりますから、障害の重い選手と軽い選手と混ぜるため、障害の一番重い選手を1.0、一番軽い選手を4.5とし、コートに出ている5人の合計が常に14.5を超えないことをルールにしています。

また、ボールを持ったまま車をこぐのは2回までで、3回こぐと、健常者のバスケットボールのドリブルに当たる反則になります。障害の軽い選手が専門にシュートを打ち、障害の重い選手は相手チームのコースを塞ぐブロック役に徹するなど、車いすバスケットボール独自のルールや役割分担があります。

なお、ご覧いただいている映像は千葉市からお借りしたもので、昨年ポートアリーナでアジア・オセアニア選手権が開催された際に千葉市が撮影し、編集された映像です。